

研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム  
プロジェクト推進型 SBIR フェーズ1 支援  
2021 年度事後評価結果

グラント番号	JPMJST2156
研究開発課題名	ドローンモニタリングによるイチゴ収量予測の実現可能性の検証
研究代表者	農業・食品産業技術総合研究機構 農業機械研究部門 主任研究員 坪田 将吾

**総合評価**

ドローンを用いてハウス内でイチゴの若葉を撮影し収量を予測する技術は興味深い  
いが、起業するにはビジネスモデルの大幅な見直しが必要である。イチゴ生産者にお  
ける栽培方法の多様性や品種ごとの生育判断条件の違いなどの深掘りを期待する。病  
害対応であればスケールする可能性もあるので、収量予測から病害対応へ方向転換す  
ることも有効な選択肢である。競合他者の動向を含めた実装の観点から目標の設定と  
検証及びビジネスプランの見直しが必要となる。

以上